

フィリピン人の笑顔と日本人

HS26-0027J 長谷川奈々

目次

はじめに

第一章 フィリピンの歴史と現在

第一節 フィリピンとは

第二節 フィリピンの歴史について

第三節 フィリピンの経済について

第二章 フィリピンと日本～仕事と女性～

第一節 出稼ぎ労働などの仕事形態について

第二節 子どもの数や女性の社会的位置による家族関係について

第三章 フィリピン滞在経験のある日本人から見たフィリピンと日本

第一節 調査の概要

第二節 仕事の都合でフィリピン赴任を2度経験した日本人の事例

第三節 夫のフィリピン赴任について行った女性の事例

第四節 親の仕事の手伝いで渡航してスラム街の人と触れ合った経験がある若者の事例

第五節 2人に比較したうえでの分析

おわりに

参考・引用文献

はじめに

フィリピンというと日本人はどのようなイメージを持つだろうか。暑い・バナナ・日本にフィリピン人が多くいるという程度ではないだろうか。私は、1年ほど父の仕事の都合でフィリピンに住んでいた。私も最初はこのような抽象的なイメージを持っていたにすぎないが、生活してみると日本よりも経済的に貧しいとされているが、日本よりも笑顔が多く見られたことが印象的だった。本稿では、フィリピンが経済的に貧しいのに笑顔が多く明るく見られたのはなぜか、社会的

背景を考え明らかにする。一方で、日本は経済的に豊かなのに笑顔が少ないのはなぜか考察する。主に女性の社会的位置や出稼ぎ労働など仕事関係や女性に注目する。

第一章 フィリピンの歴史と現在

第一章では、主にフィリピンについての概要や歴史、経済について説明し、フィリピンとはどのような国なのかについて明らかにした。フィリピンは、平均年齢が25歳と若く、15歳～64歳までの生産年齢人口が総人口に占める比率が増える人口ボーナス期が2050年まで続くことから急成長している国と言われている。人口ボーナス期を他国と比較すると日本は1990年には終了している。アジアの中でも、フィリピンの次に人口ボーナス期が続くとされているインドですら、2040年とフィリピンとは10年もの差がある。また、フィリピンは様々な国に占領されていた歴史がある。占領されてきた国は、スペイン・イギリス・アメリカ・日本である。ここで注目すべきはフィリピンを占領していた国に日本が入っているという事だ。こうした4つの国の植民地になった事とフィリピンの経済の貧しさが関わっていることは明らかだろう。しかし、フィリピンは長年の占領されていた時期があるからこそ得たものもあるという。

フィリピンの経済が成長している中でも軸になっているものがサービス業である。経済的に豊かになっても、貧富の差は激しいままであった。所得格差を示す代表的な指標ジニ係数がフィリピンは40%を上回っている。一般的には40%を超えると貧富の差が大きいと言われている。

第二章 フィリピンと日本～仕事と女性～

第二章では、仕事と女性に注目し、統計や文献を元

に明らかにした。まず、フィリピンでは出稼ぎ労働が多い。出稼ぎ労働が多い理由としては、国内に雇用における雇用の促進などを目的とした専属の機関があることだ。また、フィリピンは高い英語力と、アジア特有の親しみやすい性格と勤勉さ両方を持ち合わせていることにより、引き合いが多い。女性の社会的地位についても日本と異なる点がある。フィリピンは男女平等が進んでいる国の中で世界 135 か国中 5 位である。一方日本は、105 位と大きな差がある。フィリピンの女性が活躍している一例として、16 人の歴代大統領の内 2 人が女性大統領であることがある。このような高い地位の女性が成功している例があることが、女性の働きやすい環境を作っているのだろう。働いている人々の男女比について、日本とフィリピンを比較した。国会議員・行政機関の上級職・企業の管理職の男女比は、フィリピンは男性 47%:女性 53%、一方日本は、男性 91%:女性 9%である。専門職・技術職の男女比はフィリピンが、男性 37%:女性 63%、日本が男性 54%:女性 46%である。このフィリピンと日本の比率を見るとわかるように、フィリピンは男女の差が少なく、女性の方が活躍していると言っても良い。国会議員など上級の職になると男女比の差は小さくなるものの女性の方が比率が高い。一方日本は、どちらも男性の方が活躍しており、特に国会議員などは男性が 91%と大幅に占めている。

第三章 フィリピン滞在経験のある日本人から見たフィリピンと日本

第三章では、フィリピンに行ったことのある 3 人の日本人、仕事で 2 度フィリピンへ渡航した K さんとその妻である E さんと親の仕事の手伝いでフィリピンへ渡航経験のある A さんにフィリピンでの体験を元にインタビューし、私がフィリピンで感じた嘘のない笑顔が本物であったかを検証する。私は 3 人に「日本で生活している子どもや人とフィリピンで生活している子どもや人、あなたはどちらの方が幸せに見えましたか。率直に感じたことを教えてください」という共通の質問をした。すると、3 人とも三人三様の答えが寄せられた。K さんは私の日本よりもフィリピンの方が幸せだという一方的な考え方とは違い、見方によっては日本よりもフィリピンの方が幸せだと感じられるという両方から見た回答だった。E さんは、二度フィリピン

受け皿が不足している事や、海外雇用庁という海外に

生活を体験しており、一度目ではメイドとの摩擦などで良い印象を持たなかった。二度目のフィリピン滞在でも最初は経済的に前よりも良くなったという程度だったが、見方を変えるとフィリピン人の目が日本人よりもキラキラしていたことに気づいた。E さんは現地のドライバーとの出会いを通し、自分が幸せだと感じられるから人に優しくできるのではないかと感じた。また、日本人は目標を次から次へと作ってしまい満足しないで次に進んでしまうが、フィリピン人は目標を 1 つ達成することで満足することもフィリピン人が幸せだと感じているのではないかと回答した。A さんは 3 人のうち唯一スラム街に足を運んだことがあり、フィリピンと日本のどちらが幸せかという質問に対して 3 人のうちで唯一フィリピンが幸せだと即答した。A さんの意見は私が最初に感じた印象と少し似ている。スラム街の若者の目がキラキラしている点に魅力を感じ、印象的だったと述べている。こうした A さんの印象はスラム街に足を運んだことが無関係ではあるまい。

おわりに

本稿は、私が生活をしていて感じたフィリピンは経済的に貧しいのになぜ笑顔が多く明るいのか、一方日本は経済的に豊かなのになぜ忙しくせわしないと感じられるのかについて家族や仕事に着目し考察してきた。今まで述べてきたことから、フィリピンと日本の大きく異なる点は、出稼ぎ労働者の数と女性の社会的地位である。出稼ぎ労働する事は家族との絆を薄めるように見えるが、会える時間が少ないことで逆に絆を強めている。女性の社会的地位についても、日本は女性が家事・育児をするという固定概念があることが大きな問題である。フィリピンは、女性の社会的地位が高く、家事・育児も女性が働いているためできない場合、家族や母など協力してくれる人が多数いる。このため、育児ノイローゼなどが少ない。こうしたことが、フィリピン人が笑顔でいられる原因だろう。日本人は経済的に豊かなため様々なものが手に入りやすい環境にある。しかし、このことが逆に私たち日本人から笑顔を奪い取ってしまったのではないだろうか。日本人は一度生活のしやすい世界から離れるべきなのかもしれない。

参考・引用文献

- 井出穰治 (2017)『フィリピン - 急成長する若き「大国」』、中公新書
- 佐竹眞明 (2014)『フィリピンにおける女性と家族 (特集 もっと知ろうフィリピン)』、地理教育 (824) 30 - 35
- 佐藤義朗 (1997)『フィリピンの歴史教科書から見た日本』、明石書店
- 鈴木静夫 (1997)『物語フィリピンの歴史「盗まれた樂園」と抵抗の 500 年』、中公新書
- 永野善子 (2009)「アメリカ時代 - 「恩恵的同化」の呪縛 -」(大野拓司・寺田勇文編)『現代フィリピンを知るための 61 章』、明石書店
- 森島濟 (2017)「島国の自然と地理 - 豊かさを育む -」(大野拓司・鈴木伸隆・日下渉編)『フィリピンを知るための 64 章』、明石書店
- 森谷由美子 (2004)『ジェンダーの民族史』、九州大学出版会
- 山崎朋子 (1997)『アジアの女性指導者たち』、筑摩書房
- レイナルド・C・イレート (2009)「フィリピン革命 - 国民国家の創出と社会変容 -」(大野拓司・寺田勇文編)『現代フィリピンを知るための 61 章』、明石書店